

遺跡から見る中央区の歴史について

令和6年3月23日

千葉市埋蔵文化財調査センター 白根 義久

1 千葉市の埋蔵文化財

千葉市の埋蔵文化財包蔵地 1337ヶ所 ※令和5年4月現在
中央区の埋蔵文化財包蔵地 144ヶ所

	千葉市	中央区
旧石器時代	113	14
縄文時代	849	65
弥生時代	59	22
古墳時代	456	93
奈良時代	179	35
平安時代	453	58
中世	91	18
近世	85	5
近代	1	1

※複数の時代にまたがる遺跡があるため、総数は実数より多い

2 中央区の旧石器時代

紀元前約38,000年 本州に人が住み始める

紀元前約33,000年 千葉市に人が住み始める

このころは、氷期と呼ばれる寒冷期であった。千葉市付近の気候は、現在の北海道に近く、広大な草原の中に針葉樹林が混じる大地になかに古東京川と呼ばれる深く巨大な川が流れていた。

東京湾はまだなく、現在の埋め立て地まで広大な草原が広がっていた。

中央区内では、荒久遺跡(青葉町)、鷲谷津遺跡、観音塚遺跡(千葉寺町)で発掘調査されている。

3 中央区の縄文時代

紀元前約14,000年 縄文時代の始まり

氷期が終わり、海面が上昇すると房総半島の西側と北側には深い谷に沿って海水が入り込み、東京湾と古鬼怒湾という二つの大きな内海が形成される。

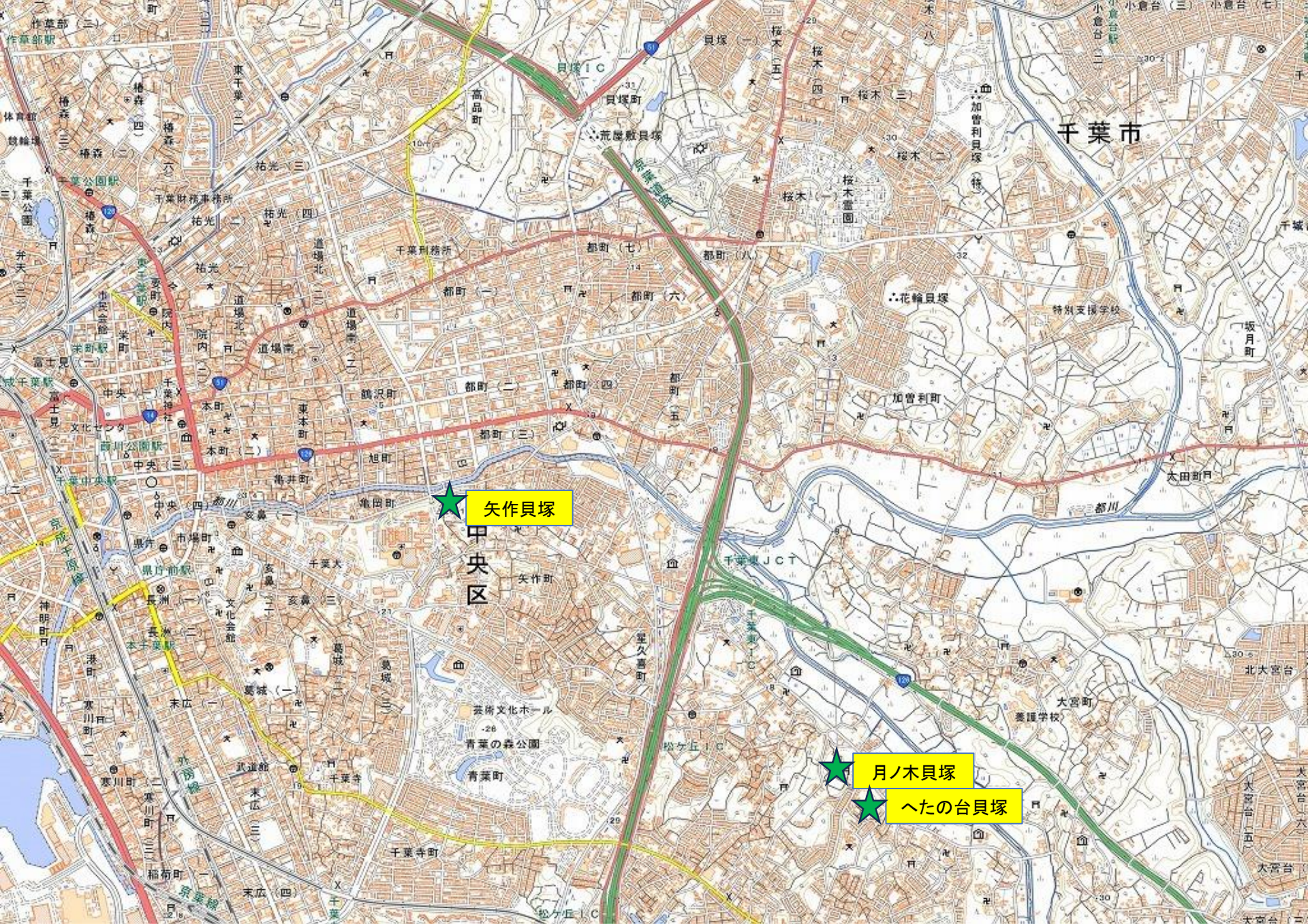
紀元前約8,000年 温暖化により落葉広葉樹林が形成され始める
土器の利用の一般化→動物以外の食材の利用のはじまり

紀元前約3,000年 通年定住型のムラの出現

大型貝塚の出現

その後、集中居住・定住型の集落群・社会の崩壊

紀元前約2,000年 復活する



国土地理院1/25000地形図を引用

月ノ木貝塚(国指定史跡)

所在地 千葉市中央区仁戸名町

時期 縄文時代中期

規模 東西約150m 南北200m



土製耳飾

貝殻(淡水貝類)をはめ込んでいる
直径約2センチ

へたの台貝塚

所在地 千葉市中央区仁戸名町

時期 縄文時代中期

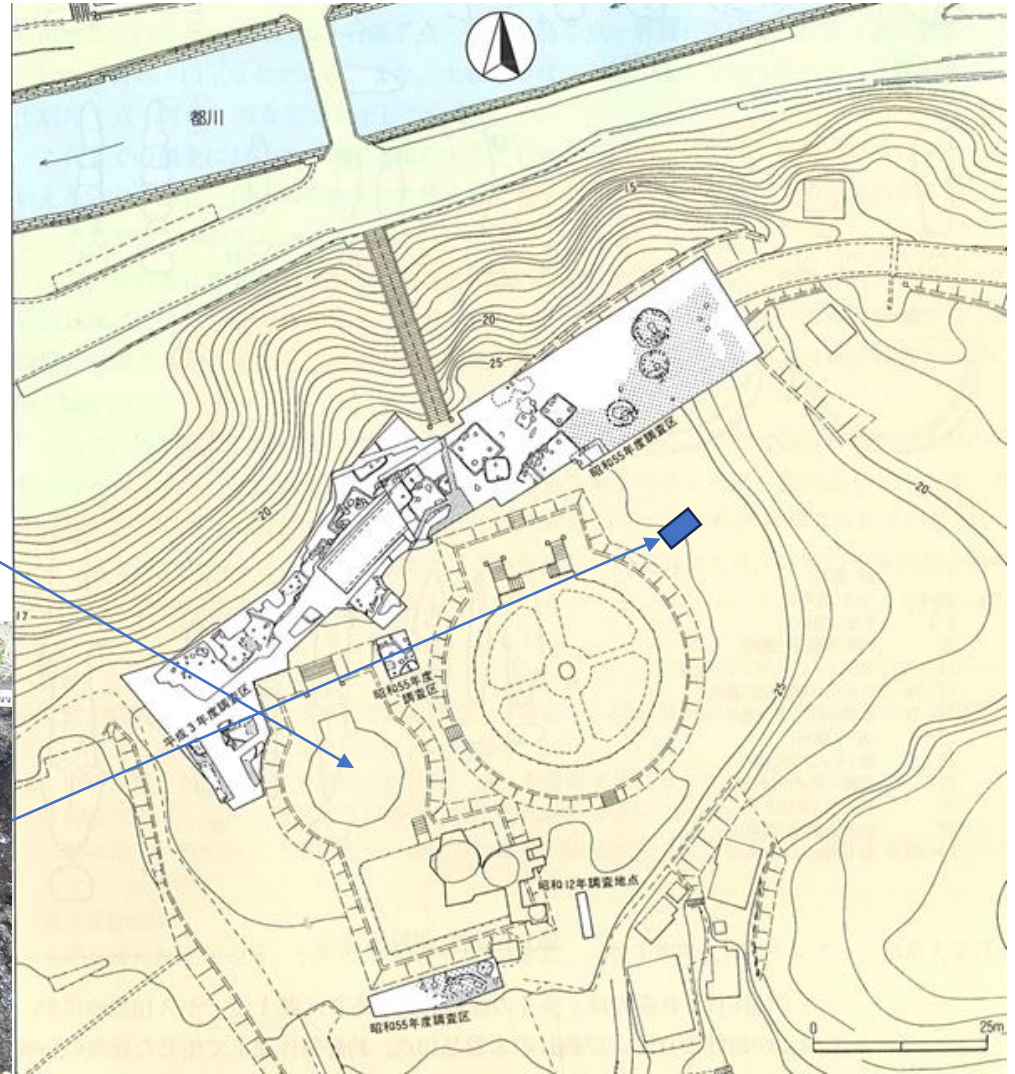


小林 嵩 2016 を引用

矢作貝塚

所在地 千葉市中央区矢作町
時期 縄文時代後期

国登録文化財 千葉県水道局千葉高架槽



4 中央区の弥生時代

弥生時代は、稲作が定着し農耕を中心とした時代で、紀元前10世紀から紀元後3世紀までの約1200年間続いた。

房総半島には、西日本よりかなり遅れて紀元前2～1世紀の弥生時代中期に稲作が伝わり、環濠集落などの大きなムラが現れた。

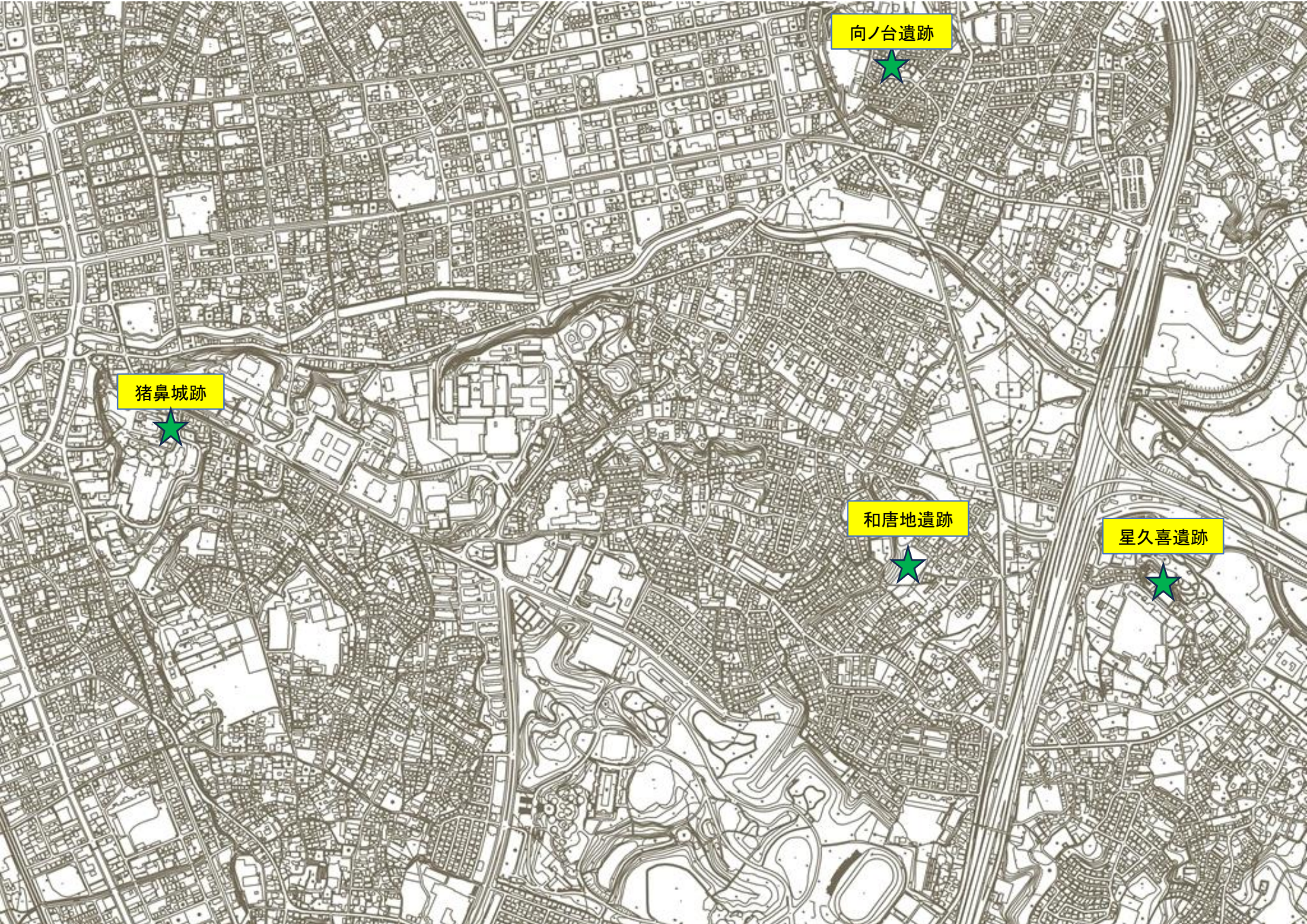
市原市から君津市付近の河口低地

灌漑を行う水田を共同経営し、大規模なムラの中に住居跡がおびただしく重複する。→西日本で発達した新たな文化の担い手

印旛沼・手賀沼周辺

住居跡は重複せず、ムラの仕組みが見えにくいことから移住を繰り返しつつ農耕を行っていたと考えられる。→東北からつながる縄文文化の伝統を色濃く残した文化の担い手

千葉市付近は、二つの文化の接触地帯



向ノ台遺跡



猪鼻城跡



和唐地遺跡

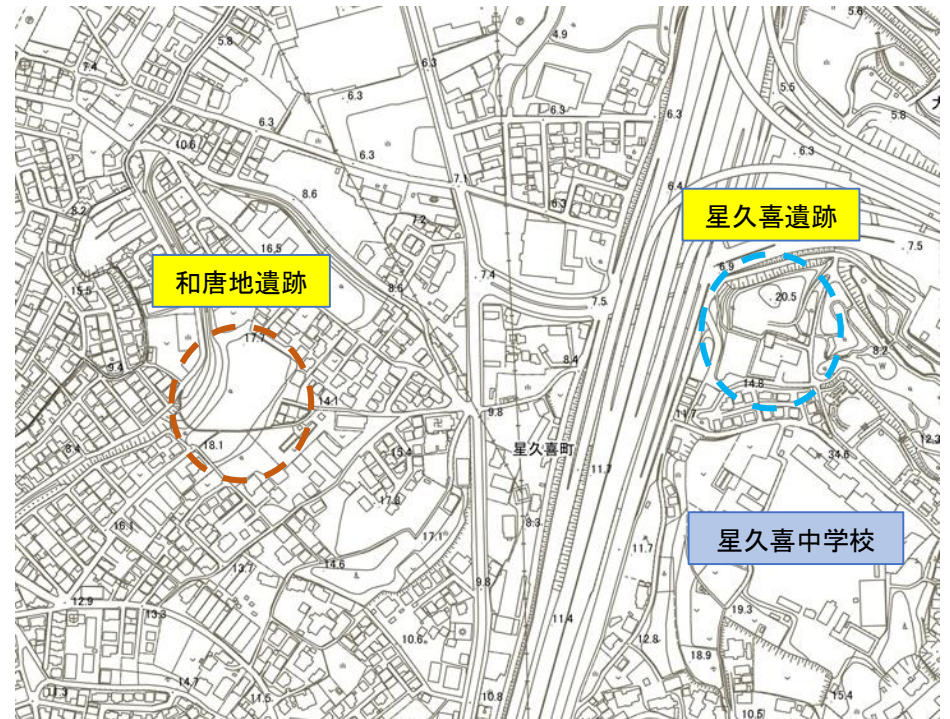


星久喜遺跡



星久喜遺跡

所在地 千葉市中央区星久喜町
時期 弥生時代中期
都市緑化植物園整備に伴い発掘調査が行われ、方形周溝墓と竪穴住居跡がみつまっている。



方形周溝墓



弥生土器(壺)

和唐地遺跡

所在地 千葉市中央区星久喜町

時期 弥生時代中期

特色 環濠集落 絵画土器

環濠は、場所により幅・深さが異なる。掘削の施工単位、作業分担を反映している可能性が高い。

絵画土器が出土した住居跡は、焼き払われており、土器は破碎・投棄されていることから祭祀が行われた可能性が高い。





航空写真(西から)



第4号竪穴住居跡・環濠
環濠の幅 2.5~4.5m
深さ 1.3~1.8m



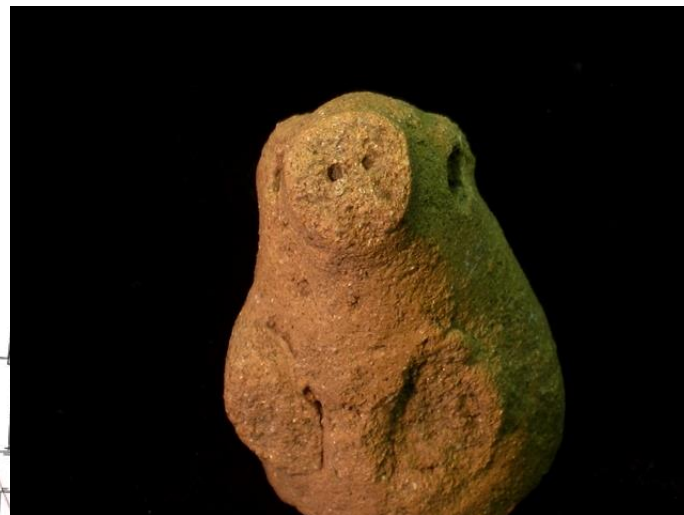
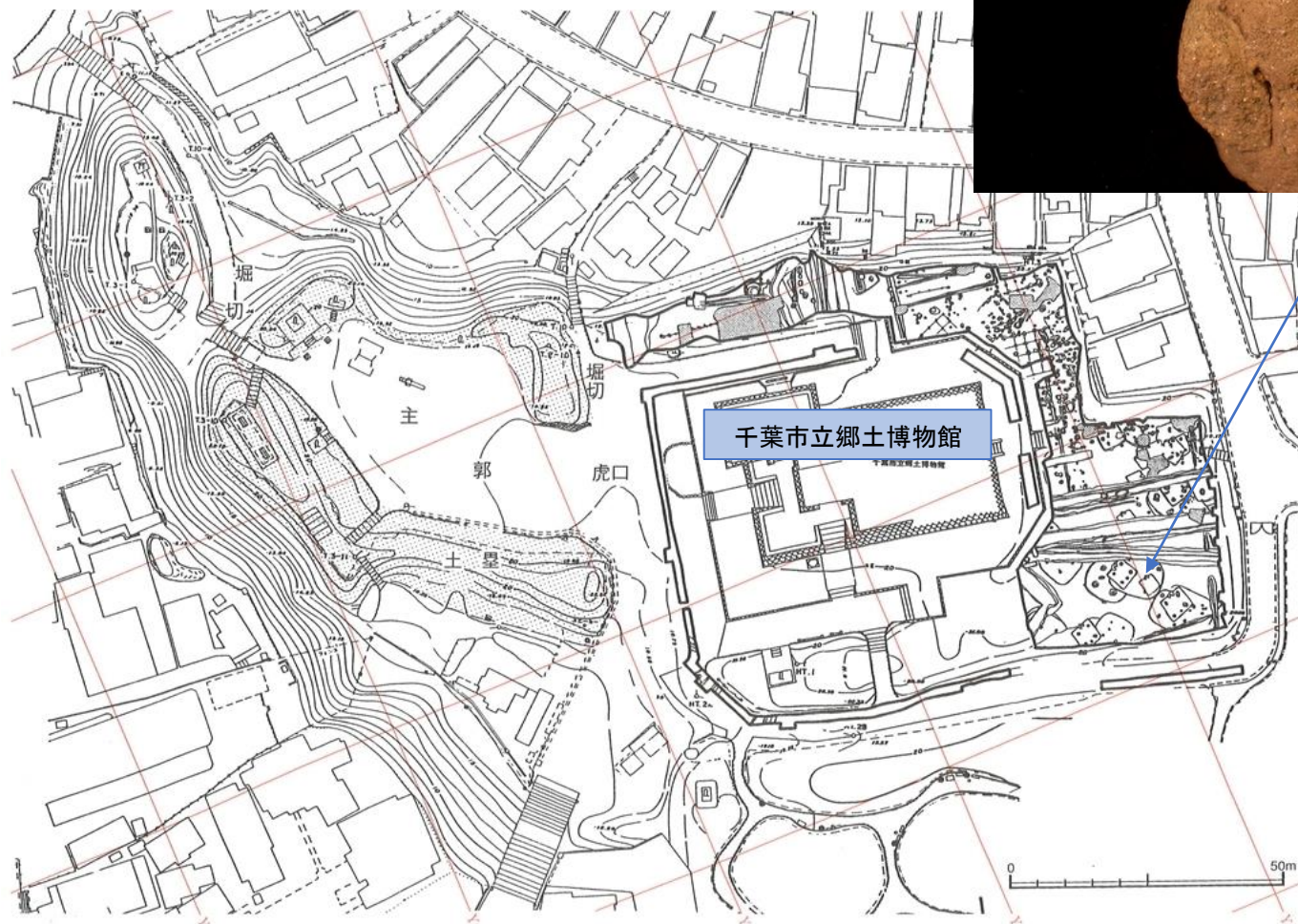
※ 展開図は▼▲の位置が一致する。 0 10cm

和唐地遺跡 第4号竖穴住居跡出土土器線刻画展開図

猪鼻城跡

所在地 千葉市中央区亥鼻1丁目

時期 弥生時代中期



イノシシ形土製品
幅 2.0cm 長さ3.2cm

向ノ台遺跡

所在地 千葉市中央区都町

時期 弥生時代後期～終末期



航空写真(南から)平成21年撮影



有角石器

長さ 12.0 cm

刃部には剥離と敲打痕が残り、部分的に摩滅している
儀礼に使用されたと考えられる
弥生時代終末期の竪穴住居跡から出土したが、弥生時代中期後半に作られたものと考えられるため、何らかの理由で持ち込まれたものと考えられる。

5 中央区の古墳時代

古墳時代は、日本列島各地に大規模な古墳が造られ、近畿地方の大首長＝ヤマト王権を中心とした首長連合が形成されて国家の礎ができた時代

房総半島はいち早く王権の前線基地的な役割を担い、大王家や中央豪族が進出するなかで有力豪族が割拠して各地に古墳群を形成した。千葉市域は有力豪族の空白地帯だったが、6世紀後半にムラと中小の古墳が急増した。

これは、外部からの移住によるものと考えられ、王権の東北進出にあたり、東京湾側から九十九里側の勢力を結ぶ必要性が高まったことによるとみられる。

大覚寺山古墳(県指定史跡)

所在地 千葉市中央区生実町

時期 4世紀末

規模 全長63m 前方後円墳

調査歴 未調査



七廻塚古墳

所在地 千葉市中央区生実町

時期 5世紀初め

規模 直径54m 高さ8.8m 円墳

調査歴 校庭整備に伴い1958年に発掘調査が行われた。



石釧

直径16.5cm



七廻塚古墳全景

装飾品というより、いまの近畿地方にあった王権から配られた政治的な意味を持った石製品と考えられている。

6 中央区の奈良時代・平安時代

(1) 律令制

主として奈良・平安時代に施行された律令法に基づき、公地公民制を基礎とする中央集権的官僚体制。

律令法は刑法の律、刑法以外の諸規定を網羅した令、補足法としての格(きやく)、施行細則である式から成っており、唐制にならったもの。

- ・公地公民制
- ・行政区画の制定 国一郡一里(郷)
- ・造籍、班田收授法の実施
- ・租・庸・調制の実施

(2) 郡制

郡の下に2～20の里 1里=50戸(数世帯を組み合わせて1戸に編成)

里には行政の長として里長がおかれる

里制は、養老2年(717)に変更

それまでの里を郷と改め、郷の下に2～3の里を置いた郷里制がしかれる

里長は郷長とよばれ、里には里正がおかれた

天平12年(740)頃 里が廃止

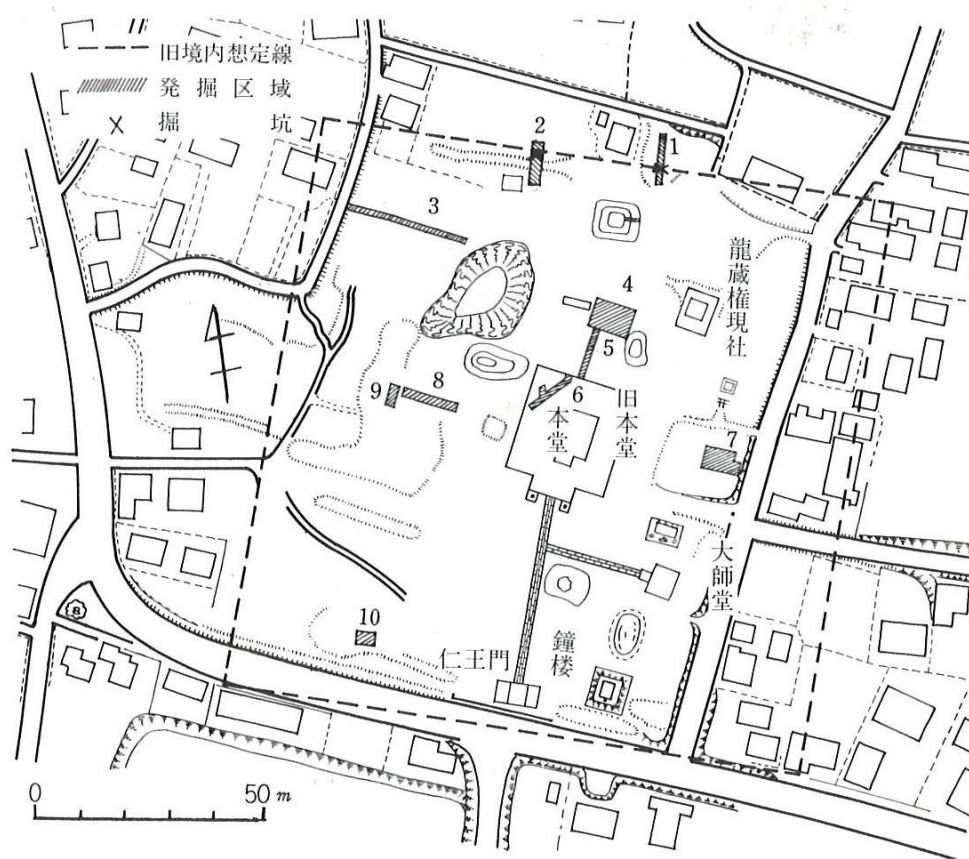


千葉県内分郡図

郡名	郷名	
平群郡	砥河 余戸 達良 石井 狹隈 長門 大里 穂田 川上	
安房郡	駅家 白浜 塩海 麻原 大井 河曲 白浜 神戸 神余	
朝夷郡	御原 新田 大瀨 満祿 健田 (大津)	
長狹郡	壬生 日置 田原 酒井 伴部 賀茂 丈部 置津	
市原郡	海部 市原 江田 湿津 山田 菓麻	
海上郡	佐三 稲庭 大野 山田 倉橋 福良 鳴穴 馬野	
畔蒜郡	美々 小河 甘木 新田 椅原 三衆	
望陀郡	畔治 表可 会戸 飯富 磐田 河曲 (鹿津)	
周淮郡	山家 山名 額田 三直 凡田 湯坐 藤部 勝部 勝川	
殖生郡	殖生 殖石 小田 坂本 横栗 河家	
長柄郡	刑部 管見 車持 兼陀 柏原 谷部	
山辺郡	禾生 岡山 管屋 山口 高文 草野 武射	
武射郡	巨備 加毛 理倉 狎猥 長倉 畔代 片野 大蔵 新居	
天羽郡	新屋 殖屋 長津 雨霈	
夷瀨郡	三宅 讃岐 荒田 長狹 白羽 余戸	
葛飾郡	度毛 八島 新居 桑原 栗原 豊島 余戸 駅家	
千葉郡	千葉 山家 池田 三枝 槽苈 山梨 物部	
印旛郡	八代 印旛 言美 三宅 長隈 鳥矢 吉高 船穂 日理	
通瑳郡	村神 余戸 辛川 千俣 山上 幡間 石室 通瑳 須加	
野田	長尾 玉作 田部 珠浦 原 栗原 茨城 中村	
大田	日部 布佐 古溝 意部 余戸	
相馬郡	大井 相馬 高根 石井 葦津 色益 余戸	
猿島郡	塔陀 八俣 高橋 石井 小塙 余戸	
結城郡	茂治 高橋 結城 小塙 余戸	
豊田郡	岡田 飯猪 手向 太方	
海上郡	大倉 城上 麻統 布方 軽部 神代 編玉 小野 石田	
石井	橘川 横根 三前 三宅 船木 (須賀)	
香取郡	大槻 香取 小川 健田 磯々 訳草	
殖生郡	玉作 山方 麻在 酢取	

千葉寺跡

所在地 千葉市中央区千葉寺町
創建 出土した瓦から8世紀第2
四半期と考えられる。
約70間(126m)四方を寺域として
想定している。



千葉市 1976 を引用



千葉寺町から宮崎町にかけての台地上には多くの遺跡がみられる

参考文献

千葉市『千葉市史』史料編1 原始古代中世1976

千葉県『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代) 1998

千葉市教育委員会 (財)千葉市文化財調査協会『千葉市猪鼻城跡』 1999

千葉県『千葉県の歴史』資料編 考古1(旧石器・縄文時代) 2000

千葉県『千葉県の歴史』通史編 古代2 2001

千葉県『千葉県の歴史』資料編 考古2(弥生・古墳時代) 2003

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館『NEWS LETTER』No.11 2009

小林 嵩「千葉市へたの台貝塚平成8年度調査の報告」『千葉市立加曾利貝塚博物館
貝塚博物館紀要』第42号 2016

公益財団法人千葉市教育振興財団『千葉市向ノ台遺跡Ⅱ』 2016

千葉市『史料で学ぶ千葉市の今むかし』 2022

小林 嵩「大宮作遺跡と砂子遺跡の調査成果」『令和5年度千葉市遺跡発表会発表
要旨』 2024

長谷川秀久「和唐地遺跡の調査成果」『令和5年度千葉市遺跡発表会発表要旨』 2024

濱 秀輝・西野雅人・服部智至 国史跡月ノ木貝塚について-立会調査報告と過去の
調査成果-』『千葉市立加曾利貝塚博物館 貝塚博物館紀要』第50号 2024